

地球環境の保全

特集

「環境ポリシー」の改定 「環境行動計画」

阪神高速グループは、脱炭素社会に向けた世界の潮流、社会情勢や周辺環境の変化に対応するため、世界の目標である「2050年カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現」に重点を置き、積極的に環境行動を推進し、挑戦することが重要であるとの認識から、2023年1月に「環境ポリシー」と「環境行動計画」を改定しました。

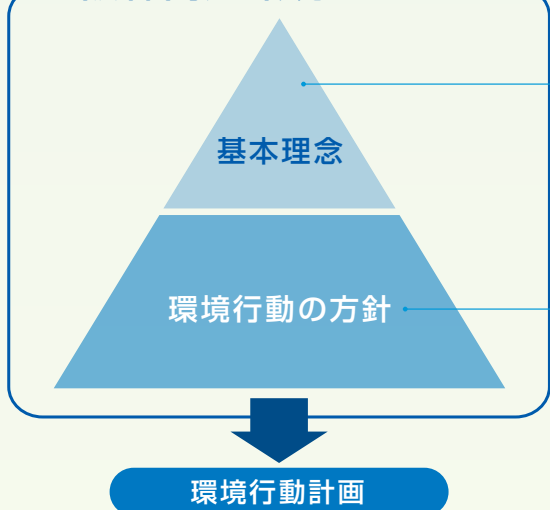
私たち社員一人ひとりが地球環境に関する意識を高め、豊かで住みよい社会を次世代に引き継ぐために、すべてのステークホルダーと連携し、地球環境共生・貢献企業として積極的に行動します。

環境ポリシーの概要

環境ポリシーは、「基本理念」「環境行動の方針」で構成し、これらに基づき、別途、「環境行動計画」を策定しています。この環境ポリシーを阪神高速グループ

全体で共有し、すべてのステークホルダーとコミュニケーションを図り、当社グループの活動に透明性を持たせつつ、社会との信頼関係を構築します。

阪神高速環境ポリシー



温室効果ガスの削減をはじめとする地球環境の保全を重要な課題と認識し、阪神高速道路の建設、管理・運用を中心とする、当社グループの事業活動に伴う環境負荷の低減に努め、また、都市の環境や景観との調和を重視した健全な都市づくりに貢献する決意を示しています。

①組織体制等、②事業活動、③コミュニケーションの3項目に区分し、高速道路の計画から廃棄物の処理までを視野に入れた総合的な環境行動の推進姿勢を示しています。

推進体制

“環境保全”にとどまらない積極的な“環境行動”を意識するため、「環境保全推進委員会」を「環境行動推進委員会」に名称変更し、「サステナビリティ推進委員会」の傘下に設置しました。また、委員構成を実務組織の長を中心に改編し、環境問題に取り組む姿勢を明確にしました。

そのうえで、豊かで住みよい社会を次世代に引き継ぐため、世界の目標である「脱炭素社会の実現」に重点を置き、温室効果ガス削減などの地球環境保全を

重要な課題と認識し、阪神高速道路の建設、管理・運用を中心としたすべての事業活動において環境負荷の低減に取り組みます。また、都市の環境や景観との調和を重視した健全な都市づくりに貢献します。

さらに、阪神高速道路を利用されるお客さまへの働きかけや地域社会との連携などを通じてさまざまな取り組みを実施することにより、阪神高速道路の環境負荷低減効果を最大限に引き出します。

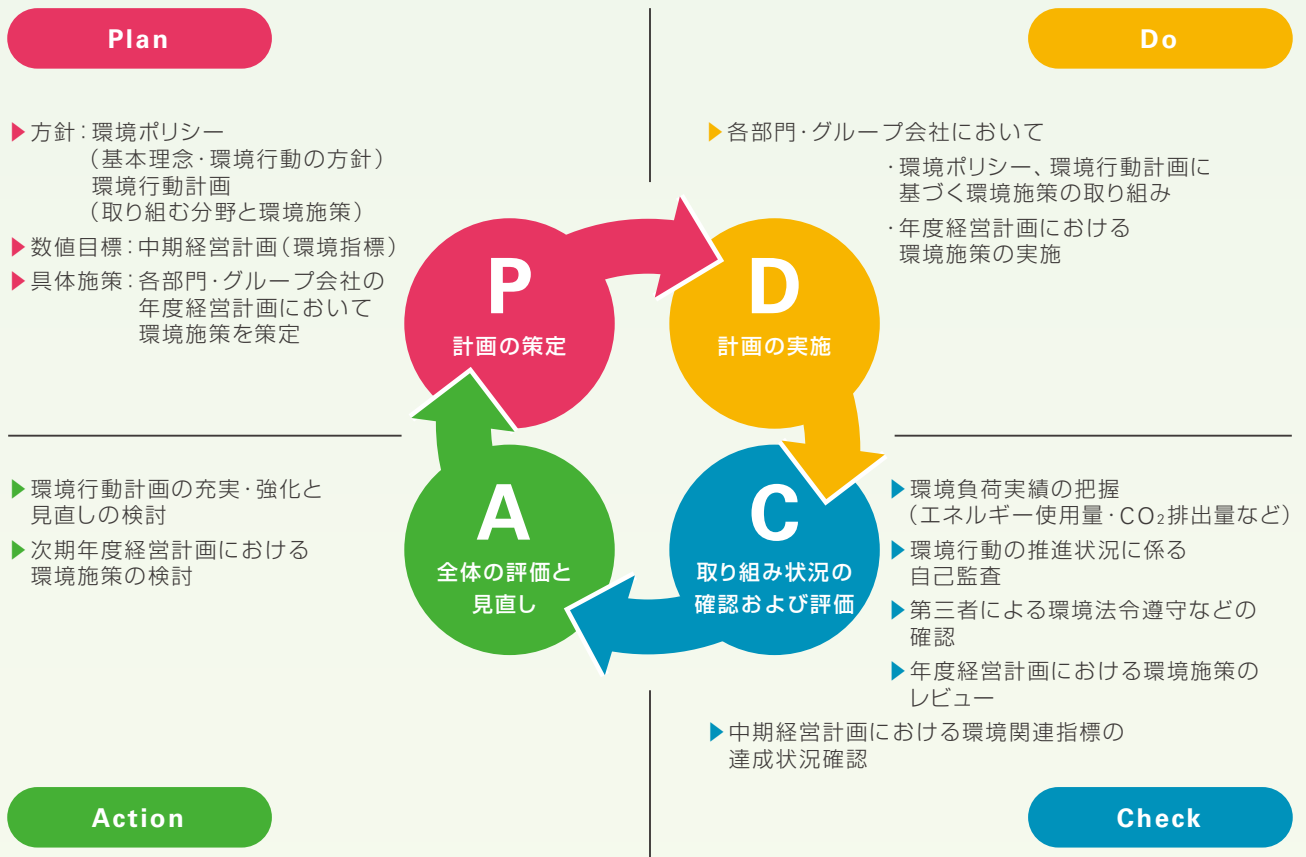
推進体制図 P.12

環境マネジメントの推進

事業活動に伴い発生する地球環境への負荷の低減、その他の地球環境の保全に資する環境施策を推進するため、「環境行動推進委員会」のもと、阪神高速グループが一丸となり、環境ポリシーに基づく環境行動

を推進します。

また、PDCAサイクルにより環境行動の管理を行い、その推進状況などについては、刊行物や当社ホームページなどにより公表します。



環境行動計画の概要

「持続可能な社会の実現」に向けて具体的に取り組む環境行動を、環境ポリシーをもとに以下の4つの柱に分類し、SDGsとの関連性も明らかにしつつ、当社グループの事業活動に係る温室効果ガス排出状況の全体像を把握し、その削減に向けて、優先的に取り組むもの、効率的な取り組みができるもの、中長期の視

点を持って取り組むものを峻別したうえで、実現可能なものから順次実施することとしています。


環境行動計画は、今後の社会情勢の変化や技術革新の動向を踏まえ、適宜見直しを行いながら、充実・強化を図ります。




脱炭素社会への挑戦



国土交通省が示す脱炭素化などへの取り組みの方向性などを踏まえ、多角的な活動の推進



循環型社会の形成




リサイクルの質の向上の観点で付加価値の高い再生材の利用方法に着目した建設副産物の発生抑制・再使用・再生利用、物品のグリーン調達、廃棄物削減など




より良い都市環境の創造と共生



阪神高速道路沿道の生活環境や自然環境の向上、沿道環境の保全と改善の推進、周辺地域との調和と長期にわたり良好な都市景観と道路空間の創造



環境啓発とコミュニケーション



環境マネジメントの着実な実施、オフィスでの取り組みを含めた社員への意識向上と人材育成のための啓発活動、ステークホルダーとのコミュニケーションの推進

VOICE 脱炭素化の実現に向けて

阪神高速グループでは、サステナビリティ経営において、とりわけ気候変動対策・脱炭素化への対応は重要であると考えています。今回の改定では、社内外にどう発信したら伝わりやすいのかを検討しながら、関係部署にも協力いただき、作業を進めてきました。そのため、より具体的な取り組みについてもまとめることができました。従前から、地球環境保全を重要課題として取り組んでまいりましたが、今後もグループ社員一人ひとりが意識を高め持続可能な社会の形成を目指していきます。



経営企画部サステナビリティ推進室
課長代理
米谷 作記子

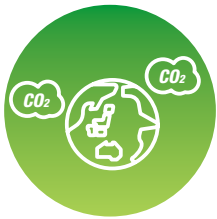
PICK UP!

「環境ポリシー」と「環境行動計画」

「環境ポリシー」と「環境行動計画」の詳細は当社ホームページで紹介しています。

詳しくはコチラ





脱炭素社会への挑戦

阪神高速グループでは、カーボンニュートラル・脱炭素社会の実現に向けた環境施策の方向性を、以下の3つの視点で捉え、総合的・包括的な取り組みを推進します。

3つの視点

- 1** より快適な高速道路サービスの提供
(地域の自動車交通の円滑化)
- 2** 社会インフラ企業としての自主努力
(事業活動における脱炭素化)
- 3** 地域や社会との共創
(地域や関係事業者との協働)

1 3つの視点に基づく取り組み より快適な高速道路サービスの提供(地域の自動車交通の円滑化)

円滑な自動車交通の確保

阪神高速道路ネットワークの拡充・強化により、都市部へ集中する交通負荷の軽減を図るとともに、ボトルネック渋滞の発生箇所における車線運用の改良や速度回復誘導灯の運用最適化など、さまざまな渋滞対策により円滑な自動車交通を確保することで、走行車両からのCO₂排出量の削減に取り組んでいます。



大阪市西区西本町付近交通状況

ネットワーク整備の推進 [▶▶ P.30](#)

渋滞対策 [▶▶ P.36](#)

高速道路ネットワーク整備はCO₂抑制に貢献しています。

自動車は時速60kmから80kmで走行すると燃費が良く、CO₂排出量も少なくなります。一般道よりも効率よく走行できる環境を整える阪神高速道路のネットワーク整備そのものが地域全体のCO₂抑制に貢献しています。

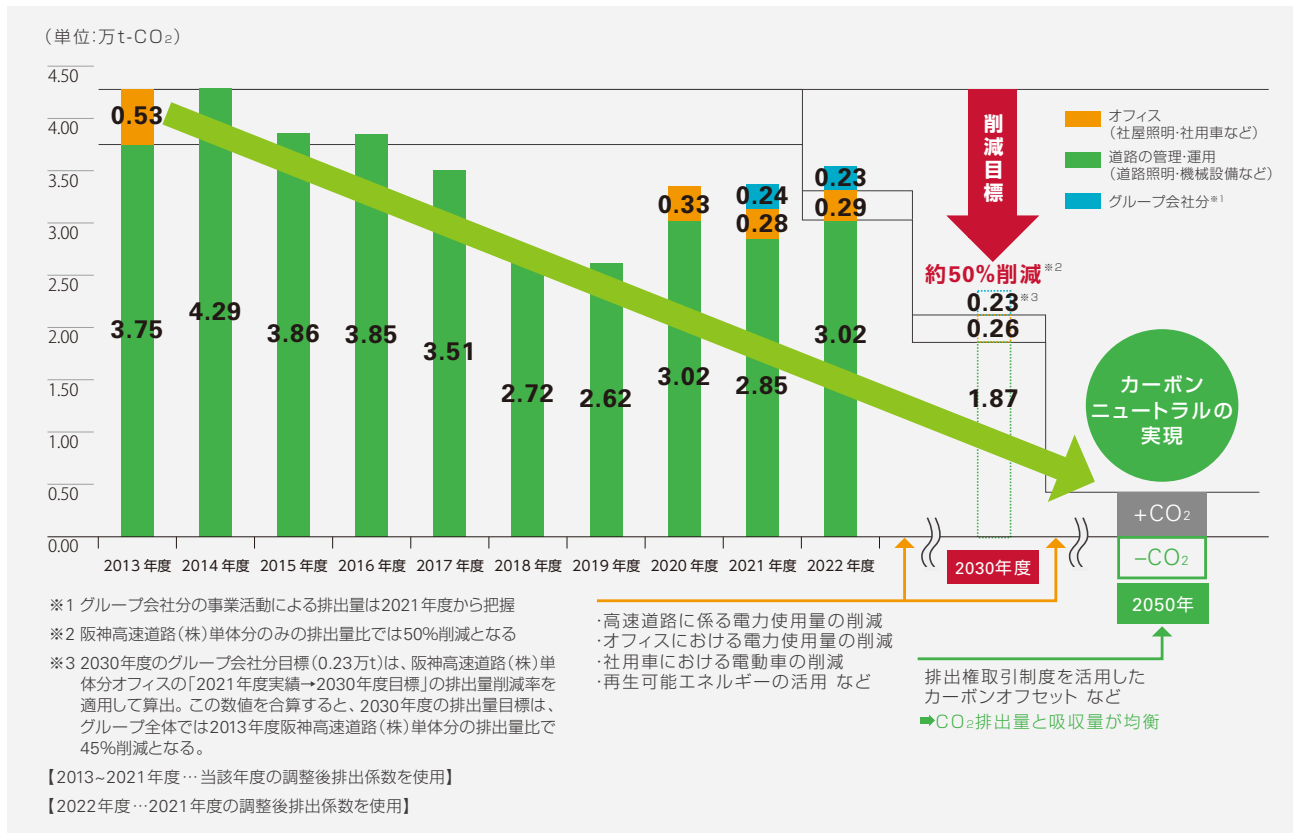


2 3つの視点に基づく取り組み 社会インフラ企業としての自主努力(事業活動における脱炭素化)

カーボンニュートラル・脱炭素社会に向けた目指すべきゴール

阪神高速グループでは、2050年カーボンニュートラルの実現をゴールに定め、2030年度までに50%削減(2013年度比)することを中間目標とし、事業活動における脱炭素化に取り組んでいきます。

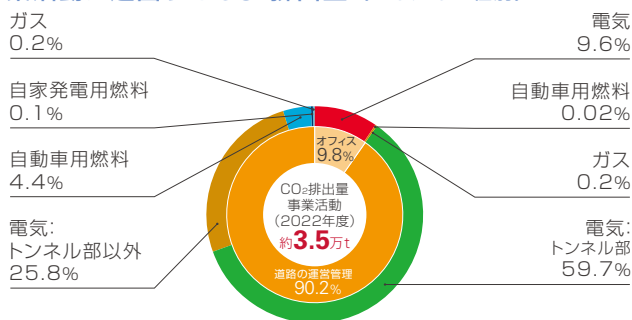
CO₂排出量および2050年に向けた目標



2022年度実績

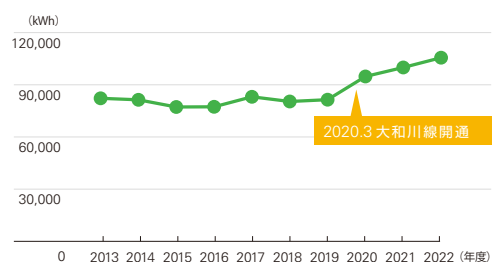
事業活動に伴うCO₂排出量のうち、電力使用によるものが約95.1%とその大半を占めています。なお、電力使用量の多いトンネル部の開通により、2020年度以降電力使用量は増加傾向にあります。また、2022年度は、コロナ禍で減少していた交通量の回復などにより、電力使用量が増加しました。

事業活動に起因するCO₂排出量(エネルギー種別)



【2021年度の調整後排出係数を使用】

電力使用量の推移



事業活動における脱炭素化に向けた取り組み

電力使用量の削減

CO₂排出量の主な要因である電力使用量の削減に向け、道路照明のLED化を進めており、2022年度までに約63%をLED化しました。また、オフィスにおいても、不要照明の消灯やオフィスでの適正な温度設定による空調設備の運転などにより、電力使用量の削減に取り組んでいます。



LED道路照明

再生可能エネルギーの活用

トンネルやパーキングエリア、料金所など4箇所に太陽光発電設備を設置し、発電した電力はトンネルやパーキングエリアなどで使用する電力の一部に利用しています。



太陽光発電(7号北神戸線長坂山トンネル坑口付近)

社用車における電動車の導入

代替不可能な場合を除き、社用車の新規導入・更新は、すべて電動車(ハイブリッド車や燃料電池車含む)への転換を推進しています。



電気自動車

3 3つの視点に基づく取り組み 地域や社会との共創(地域や関係事業者との協働)

次世代自動車の普及促進

電気自動車用急速充電器の設置

環境面に優れた電気自動車が安心して阪神高速道路を走行できるよう、すべての有人パーキングエリア(6箇所)に急速充電器を設置しています。今後、お客さまのニーズなども踏まえ、より高出力な充電器への更新などを進めていきます。



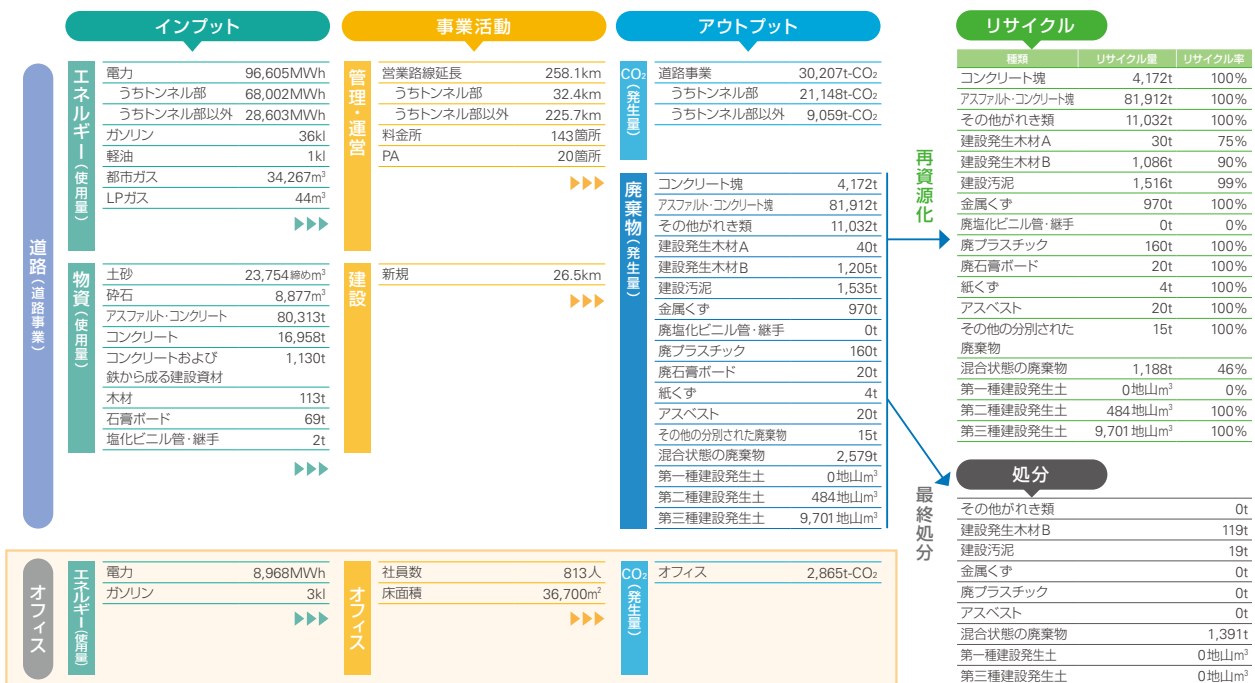


循環型社会の形成

限りある資源を有効に活用し、環境負荷を低減させるため、より付加価値の高い再生材の利用方法に着目し、建設副産物をはじめとする廃棄物の3R〔Reduce（発生抑制）・Reuse（再使用）・Recycle（再生利用）〕に取り組んでいます。また、グリーン購入法に沿った調達方針を定め、環境負荷の少ない資材の調達を推進し、調達可能な事務用品については、グリーン調達率100%を目指しています。

廃棄物の削減、資源の循環的利用の促進（3Rの推進）

マテリアルフロー図 阪神高速道路（株）単体 2022年度



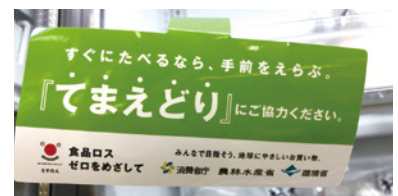
当社事業で使用するエネルギー物資の入手から、リサイクル・処分までの流れを示しています。

パーキングエリアにおける廃棄物の削減

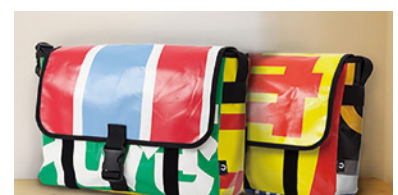
賞味期限間近の商品の割引販売や「てまえどりPOP」の陳列棚への設置などにより、お客さまとともにフードロス削減に取り組んでいます。また、レストランなどから出る廃食用油については、すべてリサイクル処理を実施しています。

横断幕再生プロジェクト

横断幕再生プロジェクト【Re:loop 阪神高速】では、雨風に強い素材の特性を生かし、バッグなどに再利用しています。また、地球環境保全のため有効活用いただける企業・団体に無償で提供し、有効活用していただく取り組みも進めています。



てまえどりPOP



横断幕再生バッグ



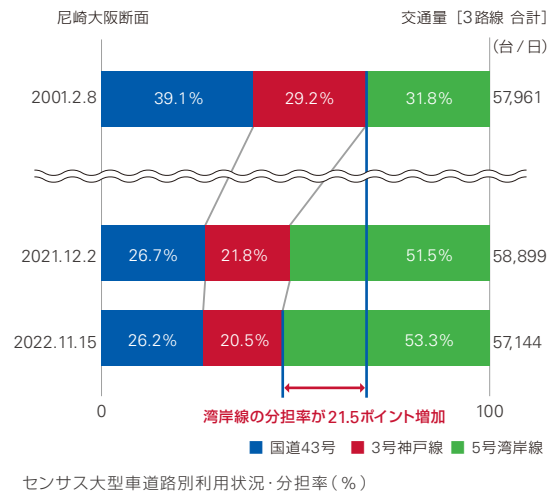
より良い都市環境の創造と共生

阪神高速グループでは、遮音壁の設置、舗装の改良や環境ロードプライシングの実施などを通じ、騒音の低減や大気質の改善に取り組んでいます。また、地域との連携や社会への貢献のため、景観などの周辺環境との調和に取り組んでいます。

沿道環境の保全

環境ロードプライシングの実施

環境ロードプライシングとは、並行する有料道路の路線間での料金格差などで、都心部や住宅地への交通流入を抑制する政策手法であり、沿道環境の改善を図る施策です。阪神高速では、国道43号・阪神高速3号神戸線沿道の大気環境改善のため、2001年11月から5号湾岸線の貨物車などの料金を割り引く「環境ロードプライシング割引」を実施しています。これにより交通転換が進み、2022年11月には5号湾岸線の分担率が実施前に比べて21.5ポイント増加し53.3%となっています。



環境啓発とコミュニケーション

環境行動に係るマネジメント(▶▶ P.18)を実施し、社員に対する環境啓発研修などの実施を通じて、環境に高い配慮ができる人材育成と社員の環境行動意識の向上に取り組んでいます。また、当社ホームページやSNS、環境イベントなどを通じて環境情報を積極的に発信し、ステークホルダーとのコミュニケーションを図っています。

環境コミュニケーションの実施

阪神高速グループの森づくり(生物多様性)

「尼崎21世紀の森構想」*の拠点施設である尼崎の森中央緑地内での「阪神高速グループの森」づくりは6年目に入り、多様性豊かな15種類の苗木は順調に成長し、2023年3月には初めての間伐作業を行いました。森には昆虫や鳥が集まるなど、地域の生物多様性保全にも貢献しています。

*「尼崎21世紀の森構想」とは、尼崎市南部の臨海地域(約1,000ha)で、森と水と人が共生する環境創造のまちづくりを進めるため、市民・行政・企業などの参画と協働により、100年かけて森づくりを行うものです。



阪神高速グループの森